

蓑輪の露頭

ここでは、火山活動の跡や貝・鮫の歯を観察することができる。

安山岩の大岩盤

蓑輪から大日へ向かう林道の途中に、安山岩の大きな岩塊を見ることができます。この岩塊には、放射状の摂理が見られましたが、写真のように防護ネットが張られたためはっきりしなくなりました。また、入会橋から蓑輪へ向か早月川左岸にも同じような岩塊が見られます。

付近には、火山噴出物が堆積してできた角礫凝灰岩もあちこちで見ることができます。火山噴出物の存在は、火山活動を示すものとして学習に活用できるのではないのでしょうか。



蓑輪の貝化石層

上記の林道沿い、尾根の間近に貝化石の集まった層が見られます。この層には、ホタテガイなどの二枚貝の他、バイガイの仲間やウニの仲間の化石などが密集して産出します。

この化石層は、大日公園から室山野用水沿いの道を上流に向かって400m程進むと用水脇に再度出現します。また、途中の崖崩れの跡を丹念に調べていくと、黒っぽい泥岩質の中に貝化石の発見できます。

これらの層を観察し、産出する化石を比較することで、地層の空間的な広がりを実感することができます。



蓑輪の貝化石層



泥岩質部分に貝化石が密集



室山用水沿いに見られる化石層

大日地区内のくさり礫

室山・大日地区では江戸時代から山肌を削って開墾されてきました。この台地の中に、部分的に開墾されずもとの山がぽつんと残された場所があります。その場所では、旧扇状地の礫（約70万年程前の呉羽山礫層に属する）が見られます。呉羽山礫層は、南砺市から朝日町までの中山間地帯に広く分布しており、同層内の礫は、風化によりくさり礫へと変化することがあります。

くさり礫は造岩鉱物からC I, S i、N a、M g、C a等が水に溶け込んで流れ出してしまう（溶脱）、粘土鉱物に変化したものです。礫を構成する造岩鉱物の中では、「長石」や「黒雲母」等がこの作用を受けます。この「溶脱」の作用によって、長石は「カオリナイト」と呼ばれる白い粘土物質に変化します。また、鉄が多く含まれている鉱物（雲母、輝石など）が風化を受け鉄が酸化すると、赤い色の粘土鉱物となります。

海水にN a C l, M g C l₂などが含まれているのは、礫の中から雨水によって溶け出したものが濃縮され、現在の組成になったものと考えられます。



黒っぽく残っているのは石英



赤く見えるのは有色鉱物中の
参加した鉄分